

私だから実感できたこと

名古屋市立天白中学校 3年 本間 悠月

ヘルプマーク。みなさんは知っていますか。私は起立性調節障害という病気を抱えています。この病気はめまい、立ちくらみ、倦怠感、朝起きられない、夜寝つけないなどの症状が見られ、思春期の子供に発症しやすい病気です。そんな病気を抱えている私が周りの人に見えるようにリュックに下げて持ち歩いているのがヘルプマークです。ヘルプマークは義足や人工関節を使用している患者、内部障害や難病などの患者が援助を得やすくなるようにつけているものです。私がヘルプマークをつけ始めたきっかけは長時間立つことができず、学校に行くことに不安があったからです。ですが、ヘルプマークのおかげで周りの人が理解し、助けてくれるという安心感で学校に行くことができています。

そんなヘルプマーク、税金によって作られています。私がそれを知ったきっかけはこの税についての作文です。この作文を書くまで税金はどのような時に払い、使われているか全くと言っていいほど知りませんでした。そして、税金について良いイメージを持っていませんでした。例えば、働いて得たお金で税金を払わないといけないのはなぜだろう。とっていました。ですが、私は税金に支えられて生活できているんだと身に染みて感じることができました。それは私だけでなく、家族や友人、先生や近所の人です。学校で教科書を使って授業を受けられること、子供やお年寄りの医療費の負担、整備された道で安全に登下校、通勤ができることなど私たちが安心して暮らしやすくするために税金は使われているのです。みなさんの中にも、税金に対して良いイメージを持っていない人もいるかもしれません。しかし、そんな人も、国民の一人、税を払う一人、いつか払う一人として税金が自分たちを支えてくれていることを知り、税金を払うことは義務というより、社会貢献できるものだと思うことが大切だと思います。

私はこの作文を通して、税金について知ることができただけでなく、二つの意志を持ちました。一つ目は税を納めてくださっている全ての人に感謝を忘れないことです。二つ目は税を納める立場になったときにこの作文を通して感じたことを忘れず、快く納められる人になることです。

そして、税金に助けられたことがある私だからこそ、私が納めた税で誰かの生活や命を助けることができると実感しました。それで働くということは社会に貢献できるだけでなく、税金を払うことでも貢献できるので、将来働くことがすごく楽しみになりました。